

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590500187		
法人名	株式会社kitahamanokaze		
事業所名	グループホームタなぎ		
所在地	秋田県由利本荘市岩城内道川字水呑場28-30		
自己評価作成日	令和2年1月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和2年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①食事は利用者の要望を取り入れながら献立を作っており、利用者の満足を得るようレベルUPを図る。また、利用者に合わせた食事形態とし、食欲そそるよう工夫している。②明るく笑顔が絶えない施設環境作り。④管理者と計画作成者が看護師である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設してから約2年が経過した事業所ですが、代表(施設長兼)と一緒に行われる朝のミーティングでは、事業所理念の方向性や利用者についての情報、職員との意見交換など積極的に行われています。職員が日々の支援の中で、想像力豊かなアイデアを提案した場合を評価し、「改善提案表彰」が代表の企画で実施されています。浴槽が左右にスライド可能、洗面台の高さが簡単に調節できるなど、利用者に合わせた設備が整っています。特に毎日の食事については美味しく・楽しく食べていただきたい思いが強く、利用者の要望を伺いながら調理に工夫、更に代表が検食し、塩加減などを確認しながら提供しています。利用者の安全を考慮しながら外出を通し、レクリエーションの機会を多くしたい意向で取り組まれています。新しいグループホーム開設に向けて計画され、来年には開設の予定です。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①人々の心に触れ人々の役に立ち②創意工夫にて地域に潤いを発生させ③共に成長し共に分かち合う④お互いの自由を尊重し合う⑤それが楽しい人生の形に成る	事業所理念を職員が見やすい場所に掲示し、毎朝申し送り時に全員で唱和 確認し実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のクринаップや地域のお祭りに参加したり、近所のお年寄りが施設に立ち寄り、散歩時は近所の人に挨拶をし地域の一員として交流している。	事業所のある地域には代表の知人も多く気軽に訪ねて来てくれます。町内会の総会に出席、また 地域の行事にも積極的に参加するなど、事業所自体が地域の一員として交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の方の相談相手になったり近所を散歩し近所の方と挨拶や声掛けする事で認知症の理解を得るよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域の情報を得たり、インフルエンザやノロウイルスなど感染状況や予防などについて意見交換を行なったことを記録に残し職員に伝えている。また、身体拘束についての話し合いをした内容も記録に残し職員にみてもらっている。	徐々に外部からの委員の出席も増えていきます。事業所の取り組み状況を報告し、活発に意見交換しサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域のケア会議に参加し、新しい地域での情報や研修などの情報収集している。	福祉課職員の訪問時や、推進会議などを通し地域の情報の提供などもあり、協力関係を深めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の施設内研修を行い、研修に参加出来なかった職員には回覧し身体拘束の行為を理解してもらい、身体拘束をしないケアを進めている。	職員は拘束の内容やリスクなどを理解し、拘束のないケアに取り組んでいます。家族にも拘束をしないで発生するリスクを説明し理解を得ています。経過記録も適切に残しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為はほとんどなかったが、さらに虐待に及びそうな行為がみられた時は状況改善に努め、徹底した虐待防止に努めていく。また、身体拘束の研修時虐待についても話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会話が出来なかったり、認知症で現状が理解出来ない利用者には、家族や市の保護課と連絡をし権利擁護に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時契約書、重要事項説明書、重度化した場合の指針などを説明を行ない、理解出来ない時はなどは電話などでも対応を行ない、納得できるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が面会時や電話連絡等の都度要望を聞いたり、ホームページなどで施設内の情報を公開したり、毎月利用者様の状態を家族様に文章で報告している。	家族とは気軽に話しやすい環境にあり、面会時や利用料金を持ってきていただいた際に、素直な意見や要望を伺い運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の打ち合わせの際、社長と管理者が必ず出席し、方向性について話し合っている。	現場職員からの意見や要望など多くあり、特に利用者と一緒にレクリエーションなどに使用する、調理器具などの購入の事例は多くあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や主任、副主任と連携をとりながら処遇改善を図ったり、資格取得や研修参加を進めるなど各自が向上心が持てるよう取り組み、個々の努力や実績を評価し昇給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育にあたってからは、外部研修、内部研修など行ない、職員の力量を把握しながら、介護技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学に行ったり、グループホーム連絡会に参加し、他施設との交流をする事でサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前にケアマネジャーと連携を図り、本人や家族の方に施設見学をしてもらったり、不安に思っている事や要望を伺い、安心して入居できるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に本人に要望を聞いたり、家族様が困っている事や不安なことなどを聞き入れ、その都度説明することで関係づくりに努めている。また、入居前に施設見学をもらっている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の担当スタッフを決め密に関わるようにしたり、調理に手伝いや洗濯物を一緒に置んだりしてもらったりしている。食材の買い物も一緒に出掛けたり、葡萄狩りなどの外出も共に出掛けている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族の絆を深めるため家族から情報を得たり、連絡をとりあいながら利用者を支える関係を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの会いたい人がいると話された時は家族様に連絡し出来るだけ会えるよう支援したり、行きたい場所にも連れて行ったりしている。	近隣の方が訪ねてきたり、理髪店や美容院へ行ったり、時には出張して来ていただく等、また家族の協力を得ながら出来るだけこれまでの生活の中での関係が途切れないように支援しています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が会話しやすい雰囲気づくりに心掛け、スタッフが間に入って話しかけたり、作業の手伝いをしてもらったり、レクレーションに誘ったり、孤立しないよう気配りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても必要に応じて主に家族の相談に応じたり、入院した時は経過を聞きフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の思いや暮らし方については自由を出る限り尊重し、希望を叶えるよう取り組んでいる。お部屋に仏壇や椅子、テーブルなどを要望があればできる限り応じている。	把握困難な利用者からは、受診の付き添い時に話してくれることもあります。また、面会を通して把握することもあり、情報は連絡ノートで共有しています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のフェースシートや家族からの情報を得て生活環境や生きがいに繋がることを把握できるよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の利用者について担当を決め、心身の状態変化に気づいた時はカンファレンスを行ない対応を検討している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当職員から課題やケアで悩んでいることなどをカンファレンスを行ない、意見やアイデアの内容をケアマネジャーに伝え介護計画を作成している。	担当職員の意見や家族の要望などを聞きながら、管理者と全職員でアセスメント・モニタリングを繰り返し、現状に即した介護計画が作成されています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日々の様子やケアの内容、気づきなどを個別の記録に記入しており、申し送り時や連絡ノートで職員で情報を共有し、実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏には施設から花火が見えるため、日中から声掛けし花火を楽しんだり、夕日の景色を鑑賞している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の定期受診を行ったり、体調不良時は主治医に相談し、必要時は救急外来受診したりしている。また、かかりつけ薬局とも連携し必要時は内服薬の説明をしてもらっている。	受診介助は主に職員がおこなっています。受診情報は連絡ノートで共有しています。また通院困難な方には訪問診療をお願いしています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護者が利用者の異変やバイタル測定時異常値の時は看護師の指示を仰いでいる。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には病院に行き担当看護師に状態を確認したり、退院時にケースワーカーと連携を図っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の対応については入所時に本人と家族に説明しており、当施設で対応出来なく成って来たら早めに本人や家族に話をし連携している施設やケアマネジャーに相談している。	事業所の「終末期の対応に係る指針」を基に、早期から家族に説明し、各関係者と連携を取りながら事業所として出来得ることを支援しています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルをみながら対応を確認したり、内部研修を行っている。夜間は職員1人の為救急搬送時は近くの職員が駆け付ける対応を話し合っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っており、また、夜間を想定した避難方法も職員全員で確認している。町内にも災害時は協力してくれるようお願いをしている。	夜間時に火災発生を想定し、数名の消防職員の協力を得て、寝たきりの利用者の避難訓練などを実施。終了後は署員からの講話もあり、防災意識を高めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、声を荒げたり、暴言を言ったりする利用者でもソフトな対応で、十分に話を聞き言葉かけをしている。	朝のミーティングで代表から話されることもあり、馴れ合いの言葉掛けには注意しながら、人格を尊重した支援が実施されています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や表出が上手く出来ない利用様は家族から情報を得たり、担当職員が細かに配慮して接し、自己決定できるよう支援している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事を自分の部屋で食べたいと希望する時は部屋に持って行ったり、入浴も午前中に限らず、午後に希望した時は午後からも入浴している。レクリエーションの参加も希望者のみとしている。	い	
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理髪店に訪問してもらい散髪している。また、入浴後には衣類の交換時自分で着る服を選んでもらったり、化粧品や下着、衣服の買い物も希望があれば買い物に出掛けて支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の調理で利用者が出来そうな作業を手伝ってもらったり、食後やおやつ時の時のごみの片付けなども職員と一緒にやっている。	美味しい物を楽しく食べていただきたい思いがあり、食べてみたいものを聞いたり、代表の知人の漁師から捕りたての魚を調理し食べていただく時もあります。代表が検食し特に味(塩加減)には注意しています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事量、水分のチェックをし、記録に残し食事状況の把握をしている。また、食べれない物は別メニューにしたり、むせ込みがある利用者は、刻みやペーストにしてなるべく食べれるよう工夫している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で歯磨きできない利用者には介助しており、寝たきりの利用者は口腔内を歯磨きウエットティッシュなどやハミンググットでケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツに尿取りパットを併用し食前や就寝前にトイレ誘導をしたり、寝たきりの利用者は2時間ごとにオムツ交換をし、出来るだけ尿取りパットのみを交換するようにしている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの状態を把握し、それとなくトイレ誘導し、出来るだけトイレで排泄できるように支援しています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チャックを行ない、排便が無い人には水分摂取を促したり軽い運動を行っている。また、午前午後に水分補給の前にテレビ体操を行ったり、食事にヨーグルトや果物などをつけている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴自立している人は希望に応じて入浴しているが、介助が必要な利用者は日勤者がいる時間帯に入浴している。	浴槽は左右にスライド可能であり、身体機能が低下している方でも介助により安心且つ安全に入浴することが出来ます。炭酸泉であり暖まると好評で、週2～3回入浴しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて休養できるよう居室の環境を整えたり、就寝後も巡回し気持ちよく眠れているか確認している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師は調剤薬局から配達された利用者薬を介護職員と共に仕分けした時に、薬効や副作用、用量について説明し、症状についても説明し変化の確認に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で洗濯たたみや、新聞たたみなど声掛けし手伝って貰ったり、山菜の処理など、その人に合ったことを手伝ってもらっている。また、誕生会を開催しみんなで手作りケーキやお好み焼きなどを作って食べ気分転換を図っている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者は近所を散歩したり、ドライブや買い物にも要望があれば出掛けている。また、外出レクリエーションで出掛けた時が外食を楽しんだり、地域のお祭りを見学後は施設でお祭りのご馳走をみんなで食べている。	散歩時には地域住民と挨拶することも多く、交流の機会でもあります。個別外出もあり、出来るだけ外気に触れる機会をつくっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には利用様の金銭管理は施設で行っていますが、買い物や出掛ける時には本人に少量のお金を手渡し、支払ってもらっている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から家族に電話して欲しいと要望があった時は担当職員が管理者と相談した上で電話している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体の空調管理を行ない、過ごしやすい環境に努めており、みんなが集まるホールや各居室においても個々の利用様の要望を受け入れたり、温度、湿度の調節に心掛けています。食後に必ずトイレや洗面所の掃除をし不快感が無いよう環境整備している。	事業所内は掃除が行き届き、気持ち良い共用空間となっています。洗面台は上下スライド可能で一人ひとりに適した高さに調節出来ます。所内は床暖房で定期的に温度調節し、居心地よく過ごせるようになっています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間スペースはホールだがソファを2個設置しテレビを観たり、会話できたり、また、独りになりたい時や休みたい時は居室で過ごして頂いている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は家族の写真や遺影など、各自使用したいものを自由に持ち込んで、個性に合わせた生活環境を作れるよう家族と話し合いながらお手伝いしている。	利用者によっては仏壇や位牌が祀られ、またベットや家具類は本人の希望や状態に配慮し、家族の意向も聞きながら設置するなど、一人ひとりか思い思いに過ごせる居室となっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の利用様が持っている能力を出来るだけ発揮できるよう、また、機能低下しないよう安全に機能訓練を行ったり、調理の手伝いや洗濯たたみなどできるだけ自立できる生活が送れるよう工夫してしている。		